

ぴあ映画
初日満足度1位
(11月3日ぴあ調べ)

文部科学省
特別選定映画

厚生労働省
推薦映画



くららシネマシリーズ

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

ぼけますから、



よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

2020年 **10月3日** **土**

13:30 開演 / 12:30 開場
東広島芸術文化ホールくらら 大ホール

13:30 ~ 15:30 上映 (日本語字幕付き)

15:30 ~ 16:00 信友直子監督 講演会

チケット価格 全席指定 (税込)

前売(一般) 1,200円 [くららフレンズ 1,000円]

当日(一般) 1,400円 (会員割引なし)

※未就学児入場不可

※車椅子席・介助者席はくららのみ取扱い

※営利目的のチケット転売は禁止

※社会的状況に応じて、内容や座席数などが変更になる可能性があります。

主催:東広島芸術文化ホール指定管理者



信友直子監督
講演会 同時開催!

監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー:大島新 濱潤 共同プロデューサー:前田亜紀 堀治樹 山口浩史
編集:目見田健 実景撮影:南幸男 音響効果:金田智子 ライン編集:池田聡 整音:富永憲一
配給宣伝協力:ボレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給:ネツゲン フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



かたうを向けず 初めづ気がいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぽっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。

前売り券 [くららフレンズ・一般同日発売]
8月8日(土) 10:00～
くららインターネット・電話 (窓口販売はありません)

東広島芸術文化ホールくらら チケットセンター
TEL: **082-426-5990** (10:00～19:00土日祝営業)
http://kurara-hall.jp/ticket_purchase